

大阪市立市岡東中学校

元気アップ便り

元気アップコーディネーター 千葉清二

こんにちは。話題の中学生将棋棋士の藤井聰太四段（14歳）がついに敗れました。それにしても凄い棋士が現れたものですね。勝負事だけでなく、スポーツや勉強などの面でも、人は負ることによって、それを糧にますます強くなっていますが、若い彼はその可能性がとても大きく、本当に楽しみですね。

楽しみといえば、科学面では昨年は、世界の理科の教科書に113番目の元素がニホニウムとして掲載されましたが来月8月に、もしかするとある地質年代の名前に千葉県市原市の地層からの由来として「チバニアン」として命名されるかもしれません。「ニアン」とはラテン語で「時代」の意味です。地質時代は中学校では古生代、中生代、新生代と大きく3時代に分類されると習いますが、高校ではもう少し細かく例えば中生代は三疊紀、ジュラ紀、白亜紀に分けられます。しかし、専門的には地質時代は100ぐらいに細かく分類されます。中にはまだ名前の付いていないものがあり、その1つの77万～12万6000年を代表する年代の名前に日本の研究グループが「チバニアン」と名付けることを提案しています。この時代は現人類すなわちホモサピエンスが出現した時代なので、とても重要な時代区分であり、もし提案が、世界の地質学会で認められたら日本の地質学会で画期的なことです。日本が提案する根拠はその時代にちょうど岐阜県と長野県のまたがる御岳山が噴火して、火山灰が地層を造りましたが、その前後で地球の磁場の逆転の証拠が見つかったからです。（地球の磁場の逆転については高校で習うと思います）しかし、地質年代の名前は以前からヨーロッパ特にイタリアの研究が強く、今回もその名付けにイオニア海の地層の化石や花粉を根拠に「イオニア」と名付ける提案がなされています。私個人としては、地場の逆転の方が重要ではないかと思うのですが、どうしても実績や研究者の人数で、採決には日本が不利ではないかと、危惧しています。

しかし、もし日本の提案が認められたら、また世界の教科書（まあ、専門書になるでしょうが）に掲載されることになり、とても楽しみにしています。

元気アップ学習会のお知らせ

この「元気アップ便り」の発行の少し前に、3年生のみなさんには、7月の学習会の予定を配布しました。また、終業式の少し前には、夏休みの元気アップ学習会の日程を配布する予定です。梅雨明け後は急に気温が上がり、体調を崩す人もいるかと思いますが、日ごろからの規則正しい生活を心がけて、元気に夏休みを迎えてください。